

認定心理士の会から

発足2年目を迎えた本会の取り組み

認定心理士の会では、5月に「中国四国セミナー『障がいのある人もない人も“共に生きる”社会を目指して — Diversity in Harmony（調和の中の多様性）：心理学が社会に貢献できること — 』」を広島で開催しました。このイベントは、昨年度に施行された障害者差別解消法を念頭に企画したもので、その指針である“合理的配慮の提供”の観点から、手話通訳や要約筆記を手配し、さらに車いす等の誘導を配置して、障がいのある方も参加できる体制を整えました。話題提供者は異なりますが、同じテーマで9月に横須賀での開催も予定しています。そして12月には、名古屋で「老年心理学の最前線 — 心理学が超高齢社会でできること — 」というテーマでイベントを企画中です。

また、新たな試みとして「NET DE 交流！認定心理士」の開催を予定しています。これ

はオンライン上で開催し、ゲスト講師が特定のテーマをレクチャーした後、同テーマについて講師と参加者とでディスカッションをします。各地で行われるイベントへの参加が難しい方にもと企画しました。

さらに今年度は、日本心理学会第81回大会（久留米大会）の企画シンポジウムとして「社会で活きている心理学 — 認定心理士の会／認定心理士の活動をアカデミアへ還流する — 」を開催します。このシンポジウムでは、認定心理士の会がこれまで開催したイベントや、有資格者の個々の活動、今後の会活動の展望を紹介します。認定心理士の会の会員であれば参加無料です。是非ご参加ください。

このように、多彩な企画やイベントを通して、会員同士の相互連携の一助となるように今年度も活動していきます。

（認定心理士の会幹事 中村由美）

若手の会から

「点」をつなげる

先日、フェイスブックの「過去のこの日」に、10年前のその日にアップされたというルームメートと一緒に撮った写真が出てきました。時期から考えると、修士課程修了を目前に、修論を書きながら、資格試験の勉強をしていた頃でしょうか（「時期から考えると」というのも、出てきた写真は、ジントニック片手に楽しそうにしているものでして……）。修士取得後もう10年になるのか……と思った瞬間、米国から日本に帰国することは決めていたものの、今後の自分の人生がどうなるかなど想像もつかなかったあの日に一気に舞い戻っていました。

置かれている環境も、選んだはずの状況も、そして、自分の気持ちも変わりやすいのが「若手」の頃でしょうか。スティーブ・ジョブズのスピーチの中で「You cannot connect the dots looking forward; you can only connect them looking backwards.」とあるように、点と点が

どのように繋がるか分からない不安と、この点たちが本当に繋がっていくのかという焦りを、きっと多くの人が感じたことがあると思いますし、もしくは、いま真っ只中で感じているという人もいるかもしれません。夏目前にして、日本各地にいるたくさんの若手が、今後の行く末を悩み始める頃でしょう（夏関係ない?）。若手の会は、そんな一人では不安な時に、頼れる姉御、兄貴、もしくはバディーのような存在でありたいと考えます。そして、点と点をつなぐのは人の人生だけでなく、心理学という学問でもまたあるのではないのでしょうか。

自分の進路でも、はたまた心理学の今後でも、一緒に考えてみませんか？ 心は決まっているけれど、でも、他の人の話もちょっと聞いてみたい。他の同志と話してみたい。若手の会って何してるんだらうと、ちょっと覗いてみたい。皆さん、大歓迎です！ 81回大会久留米でお会いしましょう。

（若手の会代表幹事 鈴木華子）